

日時：2019 年 6 月 3 日（月）17:00～19:00

場所：建築会館会議室

出席者：羽入敏樹（主査），矢入幹記（幹事），豊田政弘（幹事），中川武彦，池上雅之，富高隆，佐久間哲哉，
中澤真司，古賀貴士（前主査），平光厚雄，坂本慎一，漆戸幸雄，山内崇，富来礼次（敬称略）

欠席者：濱田幸雄，石渡智秋，川井敬二，富田隆太，佐藤洋（敬称略）

提出資料：

資料1-0 2018年度第4回音環境運営委員会議事録（案）

資料1-1 音環境運営委員会リスト2019

資料1-2 190603_環境工学本委員会（第1回）資料

資料1-3 日本建築学会大会学術講演会若手優秀発表賞実施要領

資料1-4 日本建築学会大会学術講演会環境工学委員会若手優秀発表賞実施要綱

資料1-5 2019年度日本建築学会大会（北陸）学術講演会環境工学委員会若手優秀発表賞実施概要

資料1-6 AIJ若手優秀発表依頼状

資料1-7 AIJ2018若手優秀発表採点シート（例）

資料1-8 音環境研究の社会還元促進

議題：

前回議事録（2018 年度第 4 回）を確認した。“センサの違い”の部分を修正して承認（資料 No.1-0）

1) 自己紹介（資料 No.1-1）

2) 環境工学本委員会の報告（資料 No.1-2）

- ・ 組織概要説明
- ・ 常置調査研究委員会のすべての小委員会の2018 年度活動成果報告を本会ホームページで閲覧可能
- ・ 2018年度調査研究委員会 決算状況：環境工学は消化率が上がり精度向上
- ・ 発表件数年次推移：微減
- ・ 本年度オーガナイズドセッション：5件予定
- ・ シンポジウムでの若手優秀発表の表彰について
- ・ 日本建築学会直営刊行物（和書）の電子書籍刊行：AIJESから電子化の試み（学校施設，スピーチプライバン）
- ・ タスクフォース設置申請：SDGsに当学会としてコミットメントする必要あり。17の項目に対して各運営委員会が今後答える必要がある
- ・ 鹿島の助成金：環境なし
- ・ 竹中育英会：環境工学22の応募あり
- ・ 学術レビュー委員会：論文誌の完全オンラインジャーナル化，技術報告集の完全オンラインジャーナル化ほかについて。図表がカラー化は無料，収入が増えると試算，ページ数増加，投稿料の見直し
- ・ 論文投稿数：環境一番投稿が少ないのでがんばれ。黄表紙の図表の英文化の評判が良くないので投稿数が減ったのでは。英文になっていないと事務局ではねられる。心理評価の項目なども図表の中では英文化。本文中は日本語で，査読者からも不評
- ・ 技術報告集：応募数が順調に増えた（黄表紙の減と関連？）
- ・ 投稿規定の変更：レビューログの追加，主題と副題の関係（表題：連続数編応募のタイトル：主題：内容を適切に表したものを，副題：総主題）
- ・ 環境工学連合講演会の案内：SDGs関連に決定

- ・ 教育コンテンツ：光環境は蓄積が多い
- ・ 直営刊行物の絶版在庫処分．規定に基づいて自動的にリストアップされる．本当に良いか判断
- ・ スピーチプライバシの査読者：池上さん，西川先生に依頼することで決定．5年経過のものは自動的にリストアップされる
- ・ 改定作業中のリスト：音声伝送は2回目の改定通知
- ・ 第79回音シンポジウム：LEED，WELL認証などの新しい動きをまとめる
- ・ 委員の公募：数値解析，集合住宅，インパルス応答予測

3) その他報告事項

- ・ 2019 年度大会プログラム編成について報告した

4) 審議事項

- ・ 若手優秀発表賞について確認した(ML で事前に連絡済)．司会者と運営員会のメンバーで依頼予定．プレゼンに重点をおく，実施要項は水環境に倣った（資料 No.1-3～1-7）

5) 各小委員会・WG の活動報告

① 固体音小委員会

- ・ 4 月 23 日に第 1 回小委員会を開催
- ・ スラブ素面の段階での集合住宅の居室 3 室を対象にインピーダンス法 2009、インピーダンス法山下大脇式、モード関数法、拡散度法、FDTD 法
- ・ 重量床衝撃音レベルの予測計算結果と実測値の対応について討議
- ・ 今後、検討対象を増やすとともに、床衝撃音レベルだけでなくスラブの振動特性の計算、実測の対応性の検討を推進
- ・ 固体音評価法検討 WG について、3 月 18 日に WG を開催し、成果報告として大会に投稿する原稿案を審議
- ・ メール審議を継続し 2 編投稿を完了、今回の投稿を以って WG の活動は終了
- ・ 次回は 6 月 10 日に開催予定

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会

- ・ 3 月 27 日に 2018 年度第 17 回小委員会を開催
- ・ 大会 OS の概要原稿の読み合わせ実施，プログラム案を審議
- ・ 5 月 31 日に第 18 回小委員会を開催
- ・ 遮音設計のための鉄道騒音の測定法について，聴感実験の結果より，さらに適切な測定法を絞り込むことを決定し，具体的な実験方法について審議

③ 建築音響測定法小委員会

- ・ 第 12 回小委員会 4/18（木）に開催
- ・ A 特性遮音評価関連について
- ・ 遮音の A 特性評価に関する課題等の検討結果：音環境規準検討小委に報告するための資料の内容について討議
- ・ 音響インテンシティ実験について：3/28 奥村組実験施設を借りて実験実施．目的：界壁の遮音欠損やフランキングの部位を特定する手法やセンサについて実験的に検討．センサは音響インテンシティプローブ，PU センサ．吸音条件、測定距離、SN 比をパラメータ．実験結果について討議
- ・ 数値解析小委とのコラボレーションについて：富来委員（数値解析小委 主査）より測定に応用する際の数値解析の利点や問題点，これまでの検討例を説明いただき，測定と数値解析との上手な組み合わせ（測定結果と計算結果を相互に補完しあう関係性）等について討議

④ 室内音響小委員会

- ・ 第一回室内音響小委員会を 4 月 22 日に開催

- ・ 音環境向上のための施策として、一般空間の吸音を促進する AIJES 作成の検討を進めるために、諸外国の事例として DIN18041 について情報共有
- ・ 次回は 6 月 22 日を予定し、WELL について情報共有を行う予定

WG の活動：

子供のための WG

- ・ 保育施設の騒音対策・音環境の工夫についての事例への対応
- ・ 相談が寄せられた園への対応を WG、あるいは WG 委員が実施
- ・ 保育施設からの音環境設計の窓口づくりの可能性、地方の園からの相談に現状では対応しづらいことから、専門家ネットワーク的な窓口をつくれないう議論を行った

インパルス応答 WG

- ・ MTF から STI を算出する過程で間違いやすいポイントの抽出等、今まで幹事団の中で検討してきたことを委員にも紹介して委員の中でも確認を推進

啓発企画コンテンツ WG

- ・ 企画検討中
- ・ 6-7 月キックオフミーティング予定

⑤ 音響数値解析小委員会

- ・ 3 月 13 日（水）に第 4 回小委員会を開催
- ・ 吸音率データベースについて、AIJ 大会で 2 報に分けて成果発表することと、それぞれの内容について議論
- ・ シミュレーション活用による伝送系データベースについて会議室のモデルの具体的な提案と議論。目的や方向性について議論、幾何音響シミュレーションの使用も含め試聴や聴き比べのようなわかりやすい結果を提示するデータベースを目指すことが承認
- ・ 次回は 6/5（水）に開催予定

音環境規準検討小委員会

- ・ 10 月 5 日に第 1 回小委員会を開催
- ・ 学校施設の音環境保全規準・設計指針改定刊行小委員会の進捗を報告
- ・ AIJES「スピーチプライバシの評価規準と設計指針（仮）」の進捗を確認
- ・ 「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」の各小委員会への検討状況の報告を次回以降に要請
- ・ 次回 7/12 を予定

⑦ 企画・広報WG

- ・ 今年度第 1 回 WG を 5/14 に開催
- ・ 第 79 回音シンポジウム「音環境に関する法規制・規格・基準の最新動向について」を 11/27（水）10 時～12 時に開催する（催し物計画書提出）→同日午後、スピーチプライバシ刊行小委（主査：清水先生）によるシンポジウムが開催されるため事前に調整を実施→今後資料作成等準備を進めていく
- ・ 実務的騒音対策指針（第 2 版）の改訂検討について早急な検討を要望する意見が出された
- ・ 次回 WG：6/28，次々回 WG：8/21

⑧ その他

司法支援建築会議普及・交流部会の報告

- ・ 4/18 に本年度第 1 回の部会を開催
- ・ 建築学会大会の関連行事として司法支援建築会議が主催して開催
- ・ 第 9 回建築紛争フォーラムの企画について検討しフォーラムの名称を「北陸地域における建築紛争への潜在的課題」とすることとした
- ・ 9 月 4 日（水）14:00～17:00 に金沢工業大学扇が丘キャンパス酒井メモリアルホールにて開催することとし

た。参加費無料。北陸地域は結露に関しての課題が多いように聞いている

- ・ 次回 6/21 予定

実務的騒音対策 WG

- ・ ワーキングを立ち上げるための申請書作成段階

6) 音環境研究の社会還元促進について (資料 No.1-8)

音環境運営委員会の方向性の提案：研究が実務に生かせていない。社会還元されていない。ユーザの認識不足。要求の非頭在化。最先端分野を掘り下げる一方で、最先端ではない知見も社会還元したい。音環境分野の研究の社会還元促進を目指す。方策を議論する。床衝撃音、遮音は社会還元されていると思うが、公共空間、一般建築の吸音不足、など、劣悪な空間もある。最初に少しケアするだけで、その後数十年影響をおよぼす。社会還元の現状を見極める。小委員会で社会還元の現状調査。不足しているならその理由を明らかに。うまくいっているならその理由を共有したい。考えうる方策を周知。作戦を考えたい。

討議

- ・ 赤本を見ている工務店はほんの一部。地方ゼネコンは見たこともないはず。床衝撃音ですら知られていないと思う。調停でもあきれるような事案がある。音の専門家と称する人ですら分かっていない場合もある。発注者もしかり。
- ・ 赤本のようなコンテンツはあるが、地方には届いていないということか。いくつか段階があるはず。見るコンテンツがない段階。あるが届いていない段階。届いているが予算の関係で削除される段階など。床衝撃音はどんな感じか？そういうことを議論して整理したい。
- ・ 床でいえばL数は知っているが、数値がどうであれば良いのかは分からない。マンションでいえば、施主、販売者などが聞きかじり程度の知識で動いている。
- ・ 現状認識をして共有できれば。ディスカッションを重ねたい。各小委員会で議論してほしい。室内音響啓発WGではそれを始めようとしている。
- ・ 調停に出てくる案件に、学術がどの程度貢献できるか分からない案件もある。対象者がインターネットから知りえた情報だけでなく、まともな情報にたどりつける仕組みができないかと思う。貢献の段階だけでなく貢献の方向性の整理も重要。室外機の性能などは音圧レベルからパワレベルへ変更されているが一般人には理解不能だろう。
- ・ 各分野（小委員会）で社会還元のレベルが違うはず。
- ・ 数値解析はデータベースを提供することで貢献。
- ・ 赤本が出る以前に団地ができて、赤本ができてハイエンドのマンションは遮音のクレームがないほどに高性能。ローエンドは赤本が出る以前と変わらない。ローエンドをいかに底上げするかが重要な課題と思う。ローエンドの底上げの方法について次回議論したい。建築学会の発表にアイデアを投稿したので。
- ・ 音環境はなぜマイナーか。法規制がないのが一番の問題。設計者の意識が低いのは法規制がないから。どうやって設計者に重要性を訴えるか。木造の設計者は音が弱いことを知っているのだから、問題意識が高い。設計者に問題意識を植え付けるにはどうすれば良いかを考える。
- ・ アイフォンなど身近なもので測定できる方法を提供するというのも一つの手。
- ・ ユーザ自らデータが取れるようになれば、法規制がなくとも意識が向上するはず。次回も続けて議論したい。2年間で議論できる体制をつくりたい。

7) 他学会・研究会の予定

- ① 日本音響学会・建築音響研究会：HP 参照
- ② 日本音響学会・騒音振動研究会：HP 参照

8) その他：なし

9) 次回以降の予定：

第2回：2019年10月1日（火）17:00～19:00（本委員会 9/26）

第3回：2019年11月12日（火）17:00～19:00（本委員会 11/7）

第4回：2020年3月4日（水）17:00～19:00（本委員会 3/4）

以上